

「九条譲れ」懸垂幕

井田内閣の大軍拡路線に危機感を持ち、手作りの「怒りの懸垂幕（けんすいまく）」を提出した下りたところ、投書が、本紙（10月23日付）「読者のひばり」欄に載りました。川崎市宮前区の井田高一郎さん（86）の投稿です。尋ねられた思いを聞きました。

（遠藤寿人）

川崎市宮前区

井田高一郎さん（86）

【軍事費5年間で43兆円・憲法九条譲（まも）れ】。
大軍拡・大増税NO! 優先約80%の懸垂幕

幕に、黒い墨の文字を墨書きにして、「43兆円」と「NO!」を赤で強調します。幕の材質は手で切れないと強調（きょうじゆ）な紙です。両サイドに穴を開けます。自宅は交通量の多い通りに面しています。3階から下りた懸垂幕は、とのほか自立します。井田さんは「自分の政治的な気持ちを表現する最適の場所」と語ります。

黙れないもの

一年余り下りた幕が今更の強風で引き裂かれてしまいました。空泊の期間が3ヵ月間、続きました。最近になって友人から「あそこ



大軍拡に危機感 反響

に幕を下りてよ。ないと寂しいから」と言われ、新しい幕を取り替えました。昨年12月まで5年間、看板業を営んでいました。これまで制作した幕は10年間で一本。1作目は「平和憲法をやろう」でした。

反応が想像以上にあり、

「日本の漁業食の安全医療制度の崩壊のトヨタ参加反対」「祝核兵器禁止条約発効」「まもれの憲法9条」「治安維持法の再来・共謀罪反対」などの幕をつづり続けました。

井田さんは、時々の政治情勢のなかで「その場、その場で、黙っていられないもの、腹が立つもの」を表現してきました。特に「自民の前が毎年5月、国民和平大行進のコースになってしまって、行進者を励ました」との思いがあります。

「幕を見て触発される人や力づけられたと話す人がいます。よく『元気がもられる』と声をかけられる」と話を繼續します。

軍事より平和

若い時から「資本主義の不満を感じていた」ところの強風で引き裂かれてしましました。空泊の期間が3ヵ月間、続きました。最近になって友人から「あそこ

から真っ赤になって流れるのが好きでした。國民学校で神風特攻隊の歌をうたう、戦闘機の空中戦を描いた、ほめられました。「戦争美の環境のなかで、何の疑問も持たずこねじていた」と振り返ります。

現在の状況もよく似ています。「北朝鮮や中国の脅威を吹聴して軍備増強をしてくる。何かのきっかけで武力衝突が起きる懼れで来ている」と危機感を募らせていました。

「井田曾祖は紳士の顔をした縣だ。都會の悪じことはしづぐらない。43兆円の予算を医療や福祉、教育など暮らしに回してほしい。」のミサイルの「懸垂幕」。